

2018 年度活動報告 CJP 授業：会話・聴解 4

中岡 樹里（関西学院大学日本語教育センター）

1. クラス概要

本授業は、中級後半レベルの学習者を対象とした週 2 コマ全 28 回のクラスである。クラス目標は、会話の話し手・聞き手として 1) 適切なスタイルを選択すること、2) 相手と協力しながら会話を進めること、3) 自分の意見をわかりやすく伝えると同時に、相手の意見をよく聞くこと、を身につけることである。メイン教材は『聞いて覚える話し方日本語生中継・中～上級編』（相本総子・宮谷敦美（2004）くろしお出版）である。この教材は「依頼」「許可」等の機能会話のロールプレイを中心としているが、単に会話の流れ・表現を学ぶだけではなく、様々な話す活動とその振り返りを行った。

2. 授業内容

1～4 回目の授業では、イントロ活動として様々な形式で話すタスク（自分の町紹介、話し合っ意見をもとめるなど）を行った。これらのタスクは、その後の授業での活動につながる内容であるとともに、学生間のアイスブレイキングの効果も狙った。

その後、2 回に 1 課の進度でテキストの機能会話（勧誘、許可、依頼）・トピック会話（文句、提案、感想）を扱った。機能会話・トピック会話ともに、録音した会話の文字化と振り返りコメントを課題とした。課題および授業内での振り返りを通し、学生が自らの会話や発話をモニターできるようになることを目指した。

機能会話の学習では、録音した会話を聞いてよりよい表現や会話の流れを考え、再度録音、さらにそれを文字化して振り返る、という流れで授業を進めた。授業内では、テキスト内の会話の構成や表現に着目させる時間も設けた。トピック会話の学習では、日本人学生が授業に参加する回を 2 度設け、会話の練習を行った。録音した会話の振り返りは後日の授業で行い、その際、会話相手の話し方にも着目させた。

テキスト外の話す活動として、ディスカッション（3 回）とスピーチを行った。また、学期後半には、毎回学生 1 名に 15 分程度の時間を割り当て、話題の提供者として好きなテーマ・形式で話す時間を設けた。

3. 成果と今後の課題

会話の文字化・振り返り課題は、毎回同じ形式で課されるため単調になることがあった。学生がさまざまな観点から自身の会話をモニターできるよう、段階を踏んだアドバイスを行う、課題に負荷をかけるなどの工夫を行いたい。